

サイエンスショー in 生物室



8月31日（土）、『はじまりの旭城祭～共学と驚愕の二重奏～』が開催された。生物室では、おなじみの**ミニ水族館**（魚やカメなど）に加えて、**サイエンスショー**が繰り広げられ、人気を博していた。ちなみに生物室来場者は、**357名**であった。

まずは、生物部物理班の菊地君と斎田君による自作の「**雷発生装置**」（平たく言うとそんな感じ）を使ったパフォーマンス。ものすごい音響とともに小さな稲妻が走った。耳をふさがないと鼓膜が破れそうだ。さらに、2回、3回と連続して火花が散った。期せずして拍手が起こった。実験は大成功。佐高の奇才2人組の渾身の力作の威力が、いかに発揮された。また、**液体窒素**を使ったパフォーマンスも子どもたちに受けていた。

続いて、カメ班による「**ミシシippアカミミガメの解剖**」である。といっても生きたカメを解剖するのではなく、死んでいたカメを冷凍保存していたものを解剖した。解剖することで、何を食べているかや消化能力、卵巣の発達状況など、多くのことがわかるのだ。お客さん達も興味津々で、「**これは何？ あれは何？**」と部員に質問攻めである。今回、解剖をした1年生の大家君、石橋君、関谷さん、武藤さん達は、すでに何体も解剖しているので、とても手際がよく、質問にもきちんと答えており、安心して見ていられた。

「サイエンスショー」は、生徒達のパフォーマンスの質が高く、とてもよかった。（ぜひ来年もやってください。）